

平成 20 年 11 月 7 日

各 位

会 社 名 不二精機株式会社
 代表者名 代表取締役社長 伊井 剛
 (JASDAQ コード番号 6400)
 問合せ先 取締役管理本部長 山本幸司
 (TEL. 06 - 4306 - 6822)

通期（連結・個別）業績予想の修正および為替差損の発生に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 20 年 2 月 22 日に発表いたしました平成 20 年 12 月期通期（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正し、あわせて為替差損の発生についてお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 12 月期連結業績予想の修正および為替差損の発生(平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	9,780	202	69	199
今回修正予想 (B)	8,570	6	△323	△172
増 減 額 (B-A)	△1,210	△196	△392	△371
増 減 率 (%)	△12.4%	△97.0%	—	—
(ご参考)				
前期実績(平成 19 年 12 月期)	9,484	53	△71	38

<修正理由および為替差損の発生>

売上高については、精密金型セグメントにおいて、顧客全般に発注時期の先延ばしが発生したことにより第 1 四半期の受注が低調であったこと、第 2 四半期以降の受注回復により、累計の受注総額は前回予想を上回ったものの、主要な受注の詳細仕様決定の遅れにより、個別決算で第 3 四半期末時点までの金型の生産高が予想を下回ったことなどによって、前回予想を 620 百万円下回る見込みであります。また、精密成形品セグメントにおいて、中国子会社での液晶関連成形品の一部で最終製品の立上げ遅れにより上期に予定していた量産開始が第 4 四半期以降となりました。顧客の増産などによりデジカメ関連部品・プリンター部品などの増加があったものの、前回予想を 590 百万円下回る見込みであります。

営業利益については、上記の売上高減少の影響による稼働率の低下により売上原価に占める固定費の割合が増加したことによる原価率の悪化によって、前回予想を下回る見込みであります。

経常利益については、円高の進行により第 4 四半期の US \$ の予想レートを 105 円から 98 円に変更したことで為替差損 151 百万円が発生することを想定したことなどにより、前回予想を下回る見込みであります。

当期純利益については、未払事業税の減少により法人税等調整額の計上額が増加したことな

どによって、前回予想を下回る見込みであります。

2. 平成 20 年 12 月期個別業績予想の修正および為替差損の発生(平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,847	150	37	172
今回修正予想 (B)	5,786	27	△384	△328
増減額 (B-A)	△1,061	△123	△421	△500
増減率 (%)	△15.5%	△82.0%	—	—
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 12 月期)	7,460	224	59	△227

<修正理由および為替差損の発生>

売上高については、精密金型セグメントにおいて、連結の修正理由に記載と同様の理由により、前回予想を下回る見込みであります。

営業利益については、連結の修正理由に記載と同様の理由により、前回予想を下回る見込みであります。

経常利益については、連結の修正理由に記載と同様の理由により為替差損 271 百万円が発生することを想定したことなどにより、前回予想を下回る見込みであります。

当期純利益については、未払事業税の減少により法人税等調整額の計上額が増加したことなどによって、前回予想を下回る見込みであります。

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は業況の変化などにより、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上